

INDEX

- | | | |
|-----------------------------|-------------|----------|
| ① 巻頭言 | ⑥ 新規採用職員研修会 | ⑳ 新施設長紹介 |
| ② 滝寺お花まつり | ⑦ 新任職員抱負 | ㉑ 役員会報告 |
| ④ 法人たすきリレー
いこまこども園創立70周年 | ⑨ 児童施設より | ㉒ 人事紹介 |
| | ⑬ 高齢者施設より | ㉓ 決算報告 |

社会福祉法人 宝山寺福祉事業団 〒630-0257奈良県生駒市元町2-14-8桃李館内 TEL:0743-74-1172/FAX:0743-74-1911

巻頭言

「いろはのい」

理事長 辻村 泰範

弘法大師空海の生誕千五百年を記念する企画の最後を飾って奈良国立博物館で特別展「空海」が開催された。

国宝、重要文化財で埋め尽くされたと言っている豪華な展示会は空海生誕の記念のフィナーレに相応しいものであった。

平安時代、遣唐使として唐に渡った最澄と空海は帰国後、かたや天台宗の祖としてまた一方は真言宗の祖として日本の仏教界に密教という新しい流れを築いた両巨頭である。展示会では空海に的を絞って主に学術的な視点から様々な仏像、曼荼羅などの図像や、法具などの美術工芸品と共に多くの経典、書籍文書などが紹介された。

地味ではあるが文書類の中には空海直筆の最澄に宛てた手紙（風信帖）や最澄が弟子

の泰範に宛てた直筆の手紙も展示されている。それが生きた空海や最澄が筆をとったその文字であると思うといつきに身近な生々しい存在に感じられて格別な思いを抱いた。

展示会などでは学術的な視点で空海の業績と密教の歴史的背景などが時代を追って紹介されているのだが、時代考証などはさておいても「お大師様」は意外なところで私たちに身近なご縁があるのは皆さんもご存知だと思う。

各地の有名な温泉、名湯の多くはお大師様がお開きになったと伝えられているし、弘法井戸などの名前がついているように今も美味しい水を湧き出している井戸や泉もそうだ。

物事の始まりや基本、基礎の知識がないと「それは、基本のキだ」などと注意する言い回しがあるが、「いろはの、い」と

も言う。いろはにほへと、で始まる「いろは歌」は、特に真言宗の関係者の間では弘法大師の作であると言われている。

「色は匂へど散りぬるを 我が世誰ぞ常ならむ 有為の奥山今日越えて 浅き夢見し 酔ひもせず」 アイウエオの様に単に文字が並んでいるのではなく意味のある歌として整えられているところがミソだ。最近はどうだろう、「イロハのイ」は知っていても、最後まで言える人は少ないかもしれない。歌の意味まで理解している人となると更にどうだろう。

文化財もかろうじて形は残り伝えられてはいるが、その本来の意味を私たちは理解しているかどうか。それも問われているのではないだろうか。

滝寺お花まつり を終えて

花祭り実行委員長

いこま乳児保育園

田村 佳奈子



日に日に変わる天気予報にハラハラしながらの準備でしたが、予報通り当日はあいにくの雨…。朝から落ち込んでいましたが、雨天時の開催の中もお稚児さんには空も味方をして練り歩きを無事に実施することが出来ました。愛染寮の童笑さんの太鼓演奏を先頭に沢山の拍手に囲まれながらお稚児さんたちが鮮やかな衣装を身にまとい入道され、傍におられるご家族の笑顔もとても印象的でした。ご住職からの御加持をいただき厳かな雰囲気の中、無病息災祈願やお子さまの健やかなる成長をみなでお祝いさせていただくことが出来ました。



コロナ禍の期間中は規模の縮小を余儀なくされてきましたが、ようやく節目を迎えビフォーコロナのイベント開催が最近ではあちこちで見られるようになりました。本来であれば花まつりはお釈迦様のお誕生日をお祝いする仏教行事であるとともに、法人各施設が模擬店やお楽しみ劇場を開き、日頃からお世話になつて頂いている地域や関係者の皆様に感謝のおもてなしをさせて頂く年に一度のお祭りです。今回はそのような規模までは戻さないものの、去年度よりも少し拡大し担当の仕事を高齢・児童混ぜて振り分け、実施する事で職員間の交流が図れることも狙いの一つとして企画させて頂いていただきました。職員のご家族も参加可能にさせて頂いたいただいたのも今年ならではであったと思います。



お稚児さんがお着替えを終わられる頃に、あすなる館でのお楽しみイベントのスタートです。花まつりにまつわるクイズで間違うと足もとの新聞紙を折り畳んでいく〇×ゲーム、施設で相当の数の空き缶を集めていただいたハラハラドキドキの空き缶積みゲーム、皆さんお馴染みのラジオ体操の方言バージョン、何を言っているのか分からない面白さで笑ってしまいました。食事タイムをはさみ、最後には可愛いミッキーマウスと巨大な恐竜が登場し、愛くるしい動きで盛り上がったジャンプリーミッキーとみんなで楽しめる内容でした。

食事は防災訓練もかねて豚汁とアルファ米の炊き出し。フランクフルトとドリソの販売も行いました。雨でテントを濡らさないようにと、急遽桃李館のテラスをお借りしたり飲食エリアを室内にしたりと沢山のご協力の元で開催することができ、食事の温かさが沁みわたりました。



雨予報だからと簡易的な内容にしたり、中止したりしてしまうことは簡単なことだと思えますが、当日を迎えるまでの様々な皆さんのご尽力や思いが形になったことが嬉しく思いました。また、雨でも最後まで諦めずに試行錯誤しながら、より良いものにしようと理事長や総務部長をはじめ、各施設長より沢山のアドバイスやご意見をいただけたことにも感謝しております。職員の方々には、当初の予想をはるかに上回る人数が参加して下さり準備や片付けがともスムーズに運びました。しかし人数が多い分、どう動いて良いか分からなかったり手持無沙汰だったりしたチームもあり、末端まで行き届いた連絡の方法や難しさを考えさせられる機会でもありました。初めての経験ばかりの中で、出来るだけ丁寧に企画し参加される方々の負担や混乱を避けたいとは思っていましたが、私の一番の反省は「伝えたつもり」になっていたことです。コロナ期間をはさんで、あまり花祭りの経験の無い実行委員会の方々もいらっしやったと思います。イメージの共有に尽力が足らなかつたせいで思い

違いや混乱を生んでしまったところも大きかつたと思います。一方的に伝えることで安心してしまった面もあり、互いの確認のために丁寧な対応ができていたら良かったのかもしれないません。今回のような大きなイベントにおいて花祭り会議の内容を施設ごとにどこまで共有出来るかが肝であることを痛感しました。この反省は普段の仕事においても置き換えることができ「伝えたつもり」にならないか確認したり、仕事の振り方や時間の使い方配慮したりすることの大切さに改めて気付きました。

毎年恒例の花まつりに毎回楽しく参加させていただいていましたが、実行委員長様の経験をいただけたことで、その一つ一つの開催がたくさんの方々のご尽力で成り立っていたことがわかり、改めて感謝しています。雨の開催の中で機転を利かせて動いてくださった方々との相談していただいたりと法人の職員の方々の圧倒的なマンパワーを感じました。今回の花まつりは、皆様の臨機応変な対応により成り立ったと言っても過言ではありません。

受け身ばかりではなく自発的に動き、何もないところからより良くなるように工夫をする姿勢は災害時でも求められるものだと思います。皆さんが普段から研鑽されている様子が窺われとても心強い思いでした。「世の中は成功する人と失敗する人でできているのではなくて、成功する人と挑戦しない人でできている。」という言葉があります。うまくいかなかったとき、人のせいにならず、今何ができるか自分なりに考えて動ける適応力のある人でありたいと感じました。

今回、天候の加減や参加依頼が遅かつたなどご参加いただけなかつたストラックアウトの「関電さん」、「かざぐるまさん」、「ひだまりさん」にはまた機会があればお願いしたいと思っております。最後になりましたが、地域の皆様、お稚児さんや保護者の皆様、お花まつり開催に向けてご尽力いただいた実行委員会の皆様、法人職員の皆様に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。来年度もご支援いただけますようよろしく願います。



「創立70周年記念式典・コンサート」

昭和29年6月に開園したいこま保育園は、平成29年にいこまこども園に改名し、今年度創立70年目を迎え、6月1日に、たけまるホールにて「創立70周年記念式典・コンサート」を行いました。



辻村 泰範 理事長



米田 恵美子 園長



鍵本大祐 愛護会会長

初めに辻村泰範理事長からの挨拶、小紫生駒市長、鍵本愛護会会長ご祝辞を戴きました。70周年を振り返った時、辻村理事長の挨拶の中に、いつも地域の人に開かれ、「地域の人たちとともに歩んできたという歴史を持っています。保護者の方々が中心となり、梅寿荘のボランティア、無くてはならない相談機関「いのちの電話協会」や「小さな親切運動」を作り上げて下さった」とありました。



小紫 雅史 生駒市長

私たちは自信と誇りをもって、いこまこども園の未来への第一歩を保護者の皆様と子どもたちと歩んでいきたいと思ひます。

創立70周年記念

おめでとうございます！

創立70周年

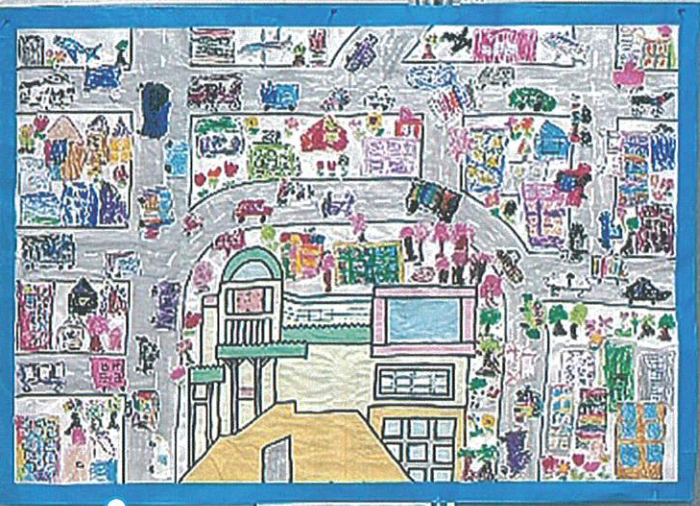


子どもたちの夢をのせて～

子ども達の思いを乗せて、これから明るく輝く未来を表す大きな絵になりました。



4 歳児



5 歳児

4歳児は未来について考えていた子どもたちの話には、いつも「みんなと一緒に」という言葉が入っていました。「友だち」から「なかま」を感じる4歳児ならではの作品です。子ども達の描く未来に向けて、さあ！大空に飛び出そう！

5歳児は子ども達の意見を出し合い、生駒の街を作りました。未来の生駒に夢を膨らませ、友だちと会話を弾ませながら描いていました。想像力豊かな子ども達が大きくなって、明るい未来を作ってくれることを願っています。

思いを繋ぐ法人たすきリレー 第7回

いこまこども園 保育教諭 赤坂 舞・出口 智子



在園児・昨年の卒園児とそのご家族を招待し、70周年記念式典・ファミリーコンサートを開催しました。多くの方が来場してくださいました。子どもたちの元気いっぱいの園歌でスタートしました。

いこまこども園のおめでとう動画を見て、園の歴史を振り返る機会となりました。

ファミリーコンサート「ゆかいなコンサート」

歌のお姉さんのみほお姉さんとマジカルパフォーマーのジージョさんをお招きしてファミリーコンサートを開催しました。子どもたちの良く知っている「おもちゃのチャチャチャ」や「パンダウサギコアラ」などたくさんの曲に合わせ、親子で手拍子したり、振り付けをしたり、一緒に歌ったりする姿が見られ、笑顔あふれるコンサートとなりました。



マジックショーでは、風船や輪・傘などを使ったマジックを見て、「お〜!」「すごーい!」と歓声と拍手で大盛り上がり。次は何が出てくるのだろうかと期待を膨らませながら楽しむ姿が見られました。



いこまこども園

70周年記念製作

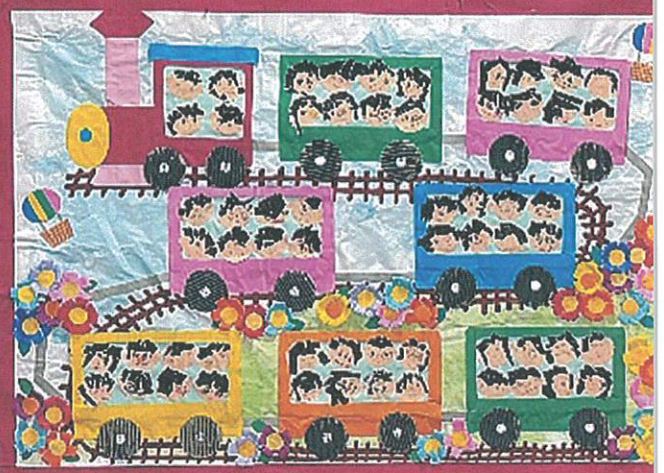
未来をテーマにして子ども達と一緒に意見を出し合い、記念製作をしました。

未来への出発点 ~ 子と



0・1・2歳児

0・1・2歳児は、子どもたちの可愛い手型・足型で鳥や蝶、花などを作りました。子どもたちの可愛い笑顔と笑い声で鳥や蝶のような羽を広げて飛ばたいってほしいという願いが込められています。



3歳児

3歳児は子どもたちの大好きな機関車をモチーフに作りました。出来ることが増えてきていろいろなことにチャレンジし始めた笑顔いっぱい夢いっぱい子どもたちを乗せて空(未来)へと出発です。



◆新採用研修/講義の部

まず辻村理事長から、法人のもととなる元興寺の歴史から、この法人が社会のニーズをいかに汲み取り、適切に応じることを繰り返すところから広がり、今も続くことになった基本の理念「興法利生」についてお話いただきました。100+1は101とは限らない、100-1は99ではない、3つの力「生きる力 耐える力 喜ぶ力」を育てつつ、自信と誇りを持って一緒に働きましょう、と声を掛けていただきました。

そして、

●「コンプライアンス」について

井上センター長（デイセンター寿楽）、

●「理解力・伝達力」について

大西副センター長（でいあー）、

●「リスクの理解」について

矢野生活相談員（デイセンター延寿）からそれぞれお話いただきました。

3つの講義を通して、働くということは法人の一員、社会の一員であり、一個人ではなく職場チームとして動くという意識の大事さを学べたと思います。

最後に

●「接遇・マナー」について、

契約職員は 齊藤センター長（梅寿荘在宅介護支援センター）から、

正規職員は 津村先生（フェリアン）から講義を受け、マナーとは"相手のことを考えること"であると教わりました。

施設見学も含め、全研修を通して法人の一員としてともに働く上での心構えを考える第一歩になったと思います。また受講者はみなさんととても熱心にグループワークにも取り組まれていて、それぞれの今後の活躍に期待を感じました。

研修委員 緒方 優子（愛染寮）

◆新採用研修/施設見学の部

新採用研修1日目は、コロナ禍を経て4年ぶりの復活となった、各施設やゆかりの場所を巡るバスツアーでした。いこまこども園に集合した後、バスに乗って宝山寺に向かいました。雨予報の一日でしたが、霧雨煙る中、宝山寺を参拝しました。次に向かったのは本部周辺の各施設で、滝寺では理事長先生からのお話を聞き、雨の合間を縫って皆で集合写真を撮りました。総合支援センターあずさにて昼食を食べ、午後の施設見学再開です。

各施設の滞在時間は20分程度と短いものでしたが、各施設の見学や職員からの説明を熱心に聞く姿が印象的でした。新しくできた、極楽坊あずかこども園を見学した後は、世界遺産の元興寺へ。本堂でご住職、辻村泰善師よりお話を聞かせてもらったのち解散となりました。雨のバスツアーとなりましたが、法人の各施設を知る貴重な機会となったと思います。

研修委員 貝田 智子（仔鹿園）

辞令交付式・研修会

今年度の新採用研修は3月26日に契約職員研修、26・27日に正規職員研修が行われ、講義の部は契約職員は26日に13名、正採用職員は27日に19名が受講しました。



◆新任職員からの一言

私は大分で生まれ大分で育ちました。大学を卒業してすぐに奈良県に住み、今までとは違う環境で生活することには不安もありましたが同時に楽しみもありました。大分にいる友人や近所の方々からは「何で奈良なん？」と聞かれることも多く、私は私生活をひとりやってみたくてという思いがあり、誰も知らない所で働いてみたいという気持ちもあつたのでゼミの先生の紹介もあり、宝山寺福祉事業団に入職しました。奈良県に住み始めてまず驚いたのはガソリン代でした。大分と比べ場所によれば二十円近くも安く正直「もう、大分ではいられないな」と思いました。ただ、奈良に来て車を



こども支援センター
あすなろ
児童指導員
渡辺 拓己

「まだ余裕がない時も
ありますが、
一生懸命頑張ります」

買物以外で乗らなくなったのでガソリン代が大幅に減ったのはとても嬉しく感じました。電車に関しても大分では一時間に一本が珍しくなく奈良では七分に一本ぐらいで来るので交通に関して困ることがなくなりましたが人口が多く圧倒されることもありました。最近では生活にも慣れて最初の頃に比べると多

少は慣れたと思います。初めての一人暮らしで、ガス代や電気代などの光熱費の契約や家電、食器などの生活必需品を一人で準備するのは少し大変でしたが一人で好きなようにできるのは楽しく思いました。今ある程度物が揃いましたが、大分ですつと乗っていた自転車を持ってこられなかったのが私的には一番悲しかったのでいつか帰省した時に自転車を持ってきて休日とかに乗りたいと思っています。

辞令交付式で配属先が「こども支援センターあすなろ」に決まった時は「どんなところだろう」というのが第一印象でした。いざ、四月から働き始め子どもたちと関わり始めて怪我のないように

と頭の中で考えすぎていたら子ども「やりたい」という一番重要な意欲を抑制してしまい、結果的に子どもたちにとつては良いことにはなりません。しかし、怪我をすることもいけないので手助けの線引きがとても難しいと感じました。入職して一ヶ月程ですが、私にはまだ知らない事や出来ないことが多くあります。他の職員の方々にも迷惑をかけているのは大変申し訳ないと思つていきます。保育案を今まで立てたことがなく時間別でその日やる事や進め方を絵にしたり、給食では、その子が何を食べられるのか、どんな工夫をして食べてもらおうかを一人一人覚える必要がある覚えなないといけない事がたくさんあるなと思いましたが遊びでは、子どもたちが楽しく遊べるように、かつ怪我のないようにしないといけないので見ないといけないことがたくさんあり難しいです。

私はまだ周りが見えず余裕がない時もありますが、一生懸命頑張つていきたいです。

◆新任職員からの一言

「新人職員研修を受けて」



特別養護老人ホーム
延 寿
介護職員
佐枝 政夫

新人研修は、1日目は、宝山寺福祉事業団の施設を巡り、2日目は、辞令交付式と座学による研修会が2日間行われました。

各施設を見学し、人の最初と最後に寄り添う様々な施設を運営している事が分かりました。どの施設でも、こども達は元気よく高齡のご利用者は穏やかに過ごされておりました。このことは、先輩方のたゆまぬ努力と、元興寺の法話でお聞きした戒律復興運動（志存興法）と、文殊会（念在利生）の歴史から設立理念の「興法利生」の想いが受け継がれていると思いました。

研修会では、法人職員になる為の心構えと守るべき事柄を学ぶ事が出来ました。

訓示では、プロとしての心構えと共に、弓の弦を張っている

状態（メリ）と緩める状態（ハリ）を例に、緊張しすぎると長続きしないことや、1000人の職員に+1人は、101ではなく、1001になるとのお話がありました。その際に、基礎をおろそかにしない。知っている事と出来ることは違う為、基礎を繰り返し自分分のものにすることで、社会人として信頼される人になること、学ぶ姿勢を持つことが大事と思いました。

コンプライアンス研修では、直近の企業の情報開示対応例（小林製薬と蓬萊）から、後手に回ると企業の信用を失墜させる事や、個人でも自身の行動は見られている。信頼は良いことを長く積み重ねていくことで築かれていきますが、個人の悪い行い一つで簡単に失われて、法人全体の運営に悪い影響を及ぼすこともありますので、気を引き締めていきたいと思いました。

理解力・伝達力研修では、普段目にするコンビニ等のロゴマークを書いてみる実習で、ほとんどの方が、必要でない情報は意図的に遮断し、詳細まで覚えていない事を例に、カクテルパーティー

効果（人混みや雑踏の中でも、自分に関係のあることや興味があるキーワードは自然に聞き取ることが出来る現象）を体験し、（見る↓観る）（聞く↓聴く）を意識的に行う事が大事だと思いました。又、伝達力では一方的に話すのではなく、相手が理解できていないかを確認し、分かりやすい言葉で相互理解を深める事が信頼関係を築き、円滑なコミュニケーションをとる事が出来るようになることが分かりました。

リスクの理解研修では、高齡者部門のご利用者を対象にリスクマネージメントでリスクを想定し、セーフティマネージメントでリスクに向き合い危機管理を行っていく方法を学びました。又、実習として、危険予知訓練として、施設でのイラストからどのような危険があるかをグループで検証し、複数人で意見を出し合う事で自分1人では気が付かなかつたことがあると実感しました。

まとめとして、福祉業界では、他の業界から途中で入る方も多く、私も別の業種から転職し、新人育成、職場コトチも行っている

した。その経験からですが、新しく仕事を覚える際に、作業のみ覚えるのではなく、この作業にどういった意味があるのかを考えてから、先輩や上司に相談する方が良いと考えます。

仕事は常に同じことを繰り返すのではなく、少しずつ改善やご利用者の状況によって細かく変わっていくと思います。その際に、作業の意図や、過去のいきさつを知らないと考える基礎がない為、対応案を考えることが難しくなると思いました。

又、新人なりの新しい視点で物事を見る事も大切だと思います。同じ業界に長くいると考え方が固定化し、思考を放棄する場合があります。その際に、ゼロベース思考（課題解決に対して、コスト、業界標準ルール、しがらみ等を無視して、最良を思案する方法）で気づかされることがありますので、疑問に思ったことは、相談することが良いと思います。

来年は先輩になりますので、その際に自分の言葉で、次の新人に作業を説明し、考える事が出来るようになりたいと改めて感じています。

児童施設より

9p

いこま乳児院

11p

いこま乳児保育園
児童発達支援いっぼ

13p

愛染寮
極楽坊あすかこども園

15p

いこまこども園

10p

こども支援センターあすなろ
児童発達支援センター仔鹿園

12p

奈良県発達障害者支援センターでいあー
平城児童センター

14p

あすかの保育園

ともに学ぶ力をつけましょう!

いこま乳児院

院長 辻村 万里子

コロナ感染症から類に移行して1年が過ぎました。今となっては、あれは一体何の騒ぎだったのかと思うほど、一時は必要以上に恐怖心が募りました。昨夏も乳児院のこどもたちの中で、コロナ感染症が発症しましたが、幸いにも短期間軽症でホッといたしました。乳幼児の施設では、今も感染症に対しては最大限の注意を払っていますが、振り返って、コロナ禍の消毒作業やマスク生活は精神的にもとても大きな負担でした。

一方ではコロナ禍ではお預かりするこどもの数が少なく、ある意味ゆったりとしていたのですが、昨秋辺りから一時保護やショートステイの依頼が増加して、受け入れの調整に頭を痛めることも

しばしば。一時保護やショートステイは、事前情報が少なくお預かりしてからアセスメントをすることになります。つまり、スタッフは何時でもどのようなこどもでも受け入れられるという「養育支援に資する高い技術と専門性」が求められます。

今年7月には、奈良県で全国乳児院研修会が開催されることになっています。全国の乳児院の仲間と共に必要とされる知識や技術を学び、分科会や交流会を通じて、大いにお互いが切磋琢磨できる機会になることを期待しています。



絵の具遊び



子どもの日

20周年を記念して、こども達のために、 大型遊具を設置しました!!

こども支援センターあすなる

センター長 廣岡 幸夫

平成16(2004)年、愛染寮集会所「あすなる館」でスタートした、こども支援センターあすなるは、今年度で20周年を迎えました。

この間、「あすなる」(生駒市元町)「あすなるあずさ」(生駒市西旭ヶ丘)「あすなるメディカル」(生駒市東新町)「生活支援センターあすなる」(生駒市西旭ヶ丘)と活動拠点を拡充し、多くのこども達の発達を支援してきました。

本年4月1日には、「あすなる」が「地域中核拠点」として生駒市に登録されるなど、20年の歩みを通して、名実ともに地域における児童発達支援のセンターになったと自負しています。

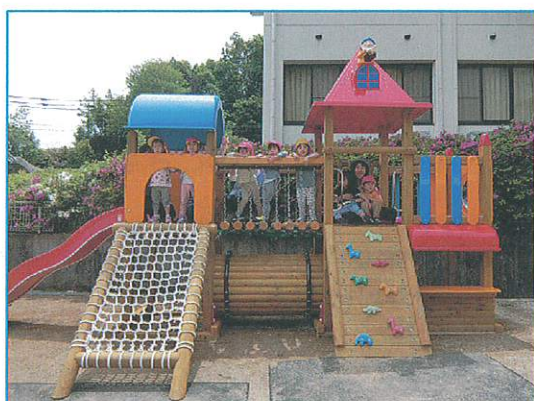
このたび、「あすなる」に大型遊具を設置しました。これまで20年間、同じもの(しかも他の施設の

中古遊具...)を使っていたので、新しいものを設置したいという思いを職員みんなが抱いていました。

実のところ、園庭遊具はそこそ高価なのですが、創立20周年を記念して、外遊びが大好きなこども達が喜ぶものを設置することにしました。安全面や機能面で優れているだけではなく、木材をふんだんに使った暖かみのあるデザインの遊具を選びました。

ゴールデンウィーク明けから使用を開始しましたが、幸いこども達は気に入ってくれたようです。天気の良い日には、「あすなるあずさ」や「あすなるメディカル」からも遊びにきてくれます。

これからも、職員みんなで、こども達を精一杯支援していきます。



大型遊具設置にあたり、「公益財団法人 森田記念福祉財団」様から、50万円の助成を頂きました。心より感謝申し上げます。



新しいスタート

令和6年度のスタートは様々な手続き上の変化に対応を迫られるスタートとなり慌ただしいスタートとなりました。というのも障害福祉サービス報酬改定の年となったためです。そんな慌ただしい毎日ではありますが毎日、元気のいい声で子どもたちが通ってくださる姿を見ると気持ちが柔らかくなり、私たちも笑顔になります。

新入園のこども達は、最初は保護者の方と一緒に登園しますが徐々に、こどもだけで登園する単独通園となります。泣いていたこどもも、日を増すごとに笑顔で過ごせる時間が増えていきます。新しい環境に少しずつ慣れていくこどもの姿に私たちが元気をもらっていることに改めて気づきます。

児童発達支援センター 仔鹿園

園長 田中 一嘉

子どもたちの笑顔に更に応えるべくより良い療育、質の高い相談支援を目指し子どもたちと歩んでいきたいと強く感じた春になりました。



5月人形

行事の見直しを通して

新年度がスタートし、泣き声で賑やかだった保育室も少しずつ落ち着きはじめました。今年度は、2つの行事の見直しをしました。今まで土曜日に行っていた行事ですが、土曜日だからこそ休みが取りづらく参加出来ないという保護者の声があり一度見直すことにしました。ひとつは親子で遊ぼうDAYです。それぞれのクラスで内容を考え保護者の方と一緒に遊ぼうという日です。今年は平日にするのでお仕事の都合をつけやすいように、2日間設定日を設けるようにしました。もう一つは、みんなのフェスティバル(作品展)です。土曜日1日だけの展示ではなく年齢ごとに1週間ずつ会議室に子どもの作品を展示して、その期間は自由に何度でも見てもらえるようにします。

行事を見直すことにより保育士の土曜日出勤の回数も減り、業務改善にも繋がりそうです。

いこま乳児保育園

主任保育士 小田 朝美

保育士も休みが有効に使え心のゆとりもでき、そして保育の中での笑顔が増え、子どもたちも笑顔いっぱい楽しい毎日が過ごせるようになればと思います。



昨年の親子で遊ぼうDAYの様子

いっぽで給食がはじまりました!

いっぽは新しい子ども達、そして職員を迎え、にぎやかに新年度がはじまりました。そんないっぽに大きな変化が、、、隣の極楽坊あすかこども園様のご協力を得て、「給食」が提供出来るようになったのです。

今までお弁当持参だったので、テーブルに並んだ美味しそうな給食に初日はびっくりした子どもたち。あつという間にお弁当を完食していた子どもたちも給食を前に口をぎゅっと結んで「いつものお弁当と違う!食べない!」というように顔をそらしたり、ぱっと見て好きなメニューがないと席から立ち歩いてしまったりと、ある程度は予想していた事ですが、子どもたちの反応は本当に様々で職員は皆でんやわんやです。

波乱な様子で始まった給食でしたが、「ほーらこんなにおいしいよ～」と職員が食べている所を見てもらったり、スプーンの端っこにちょっとだけ乗せて大好きなごはんと一緒に!と勧めてみたりと、あの手、この手でやりとりしながらを繰り返して

児童発達支援いっぽ

副主任 大島 友美

いる内にちよとずつ食べる量が増え、今ではおかわりする子も出てきました。

いっぽには発達の特性として偏食傾向が強いお子さんも来られています。食べられない食材もお子さんによってはあるかもしれませんが、みんなと一緒に食べると楽しいなあ、美味しいなあという思いを積み重ねられるような給食の時間にしていきたいと思っています。



発達障害者地域支援マネージャーって??

奈良県発達障害者支援センターでいあー

副センター長 大西 和幸

発達障害者地域支援マネージャーは、発達障害者支援センターへ配置され、各自治体、福祉事業所、学校、医療機関との連携や困難ケースへの対応等を実施し、支援機関の方々への支援を行います。でいあーでも6年前から地域支援コーディネーターとして同様の活動を行ってきました。今年度からは地域支援マネージャーとして名称を変え、“支援者への支援”や“地域での体制作り”をより積極的に行います。具体的取り組みの一つとしては「発達障害者等伴走型支援体制整備検討事業」があります。各市町村へでいあー職員が出向き、障害福祉・保健センター・子育て・教育等の担当課職員の方々と共に、地域の社会資源の“見える化”のツール(Q-SACCS)を使って、社会資源や各ライフステージの情報の繋ぎについて情報を出し合います。地域での“課題”や“強み”についても話し合うことで、部局間の情報共有や今後取り組まないといけない課題等を明らかにします。

県内全市町村での取り組みが目標ですが、すでにモデル地域として9つの市町で取り組みを始めています。残り30市町村とまだまだ先は遠いのですが、地域の支援機関の皆様のお役に立てるよう頑張っ



※写真説明「Q-SACCS(地域支援システムの簡易構造評価)」

子どもを中心に 新たな取り組み・活動を

平城児童センター

センター長 徂徠 おさむ

令和6年度は、「はじめのいっほ」「どろんこの森」「地域とのふれあい交流」の通年サークル活動を実施しています。

小学生のサークルは22名の応募がありました。例年、参加者は高学年になると継続する児童が少なくなりますが、一・二年生が中心の新たな児童が入会します。保護者の皆さんが希望される活動は「家では体験できない活動」「野外活動」「他の児童との交流」などでした。

これまではセンターで年間計画を決めて活動を実施していましたが、昨年から自分たちで考えて活動する「自由遊び」の時間を増やしたところ子どもたちはははグループかに分かれて楽しく遊んでいました。

これからも「子どもが自ら遊びを作り出すこと」や「新しい子どもとの交流の機会を増やすこと」を大切にしていきたいと考えています。また毎年希望する活動のアンケートを実施していますが、

今回希望が多かったのは「遊園地」「動物園・水族館」「キャンプ」「野外活動」等の活動でした。今年度もできる限り子どもたちの希望や自由な意見を尊重した活動を中心に行い、子どもたちの健やかな成長とセンターがこどものよりよい居場所となるようにしていきたいと考えています。



愛染寮から巣立つということ

愛染寮

主任児童指導員 菅尾 明史

4月に恒例の「新入生を祝う会」が行われました。コロナ禍での分散開催を経て昨年からの通常の集合型で行い今年にはマスクもなく完全な形に戻りいつも通りの光景となりました。

この行事は子ども達の成長を感じることが出来る行事の一つです。このまま成長し高校を卒業し自分が望む進路に進んでくれると良いのですが…。最近では愛染寮でも高校卒業を待たずに自立する子どもも珍しくありません。私が入職した20数年前では「高校を卒業して職員寮があるところに就職」が多数を占めていましたがこの数年で愛染寮の巣立ち方も変わってきました。今年の高3年生は6人いますがどんな進路を選ぶのでしょうか？楽しみです。

元々児童養護施設にはアフターケアの機能はありましたが、ここ数年その重要性が叫ばれています。わが愛染寮にも昨年度より自立支援担当職員が配置されています。

もちろん愛染寮を出てからのアフターフォローも大切ですが、それまでの日々の養育の重要性は言うまでもありません。日々の生活の積み重ねを大切に愛染寮の職員、児童とも頑張っていきたいと思います。また今年度は施設長以下主任2名、副主任2名の新しい体制となり新任職員4名を迎えてスタートしました。ご支援、ご協力よろしくお願い致します。



新一年生を祝う会～梅寿荘森本次長さんよりお祝いを頂きました。

新タマネギ大収穫！

極楽坊あすかこども園

管理栄養士 辻森 萌

こども園では5月上旬に4・5歳児が玉ねぎを収穫しました。子どもたちは、玉ねぎの大きさに驚いたり、「収穫って楽しいね!」と何回も玉ねぎを抜いたり、収穫をととても楽しんでいる様子でした。数を数えてみると、なんと100玉以上もあり、3回に分けて給食に入れ、おいしくいただきました。

昨年の秋に園舎が移転し、園の畑も大きくなりました。最初は何もなかった畑ですが、近くにお住まいの在園児のおじいさんが石を取り除き、肥料を混ぜて畝を作り、手入れをしてくださりました。その方にたくさんのことを教えていただき、今では季節の野菜が収穫できる素敵な畑になりました。職員だけでは知識がなく、行き届かない部分も、日頃畑をしていらっしゃる方に助けていただけたことで、子どもたちも様々な経験ができたように思います。

新園舎になり半年が過ぎましたが、まだまだ今までの保育内容を新園舎ではどのように進めていくか話し合いながら過ごす毎日です。地域の方とも協力しながら、新しい設備を生かし、子どもたちが経験できることが増えるよう考えていきたいと思っています。



りっぱなタマネギ、抜けるかな？

夏野菜を育てるぞ～!!

あすかの保育園

主任保育士 川崎 香織

5月の連休明け、年長さんと一緒に夏野菜の苗を買いに行きました。店内をぐるぐる回っていると、「これ、と・ま・とって書いてる!」と字を読んで教えてくれる子、「これはね77円で、こっちは258円って読むねん。」と数字を読む子、「トマト、おばあちゃん植えてる!」と葉っぱの形を伝えてくれる子…みんなが自分の思っていることをしっかりと言いあいながら協力して、目当ての苗を買うことができました。

じつは、去年の秋に玉ねぎの苗を植えたのですが、半分ぐらいを枯らしてしまいました。気温の高い日が続いたことや、水やりが十分でなかったことが原因と考えました。水やりは、いつも子どもたちが当番でしています。それが、いつの間にか立ち消えてしまったのです。振り返ってみると、この時期に玉ねぎを植えることが恒例化しており、「玉ねぎの苗を植えましょう」と先生に言われたからする、という感じで子どもたちの思い入れが薄かったのではないかと思います。今回、年長に進級した子どもたちから「夏野菜を植えたい!!」という発信があり、みんなでどんなふう育てていか話し合いました。あてがわれたものではなく「自分たちで考える」という過程を大切にしてきました。話し合いのなかで、思い通りにならず葛藤したりケンカもしたりしましたが、みんなとても楽しそうです。お互いの顔を見てコミュニケーションが取れることの大切さを改めて感じました。

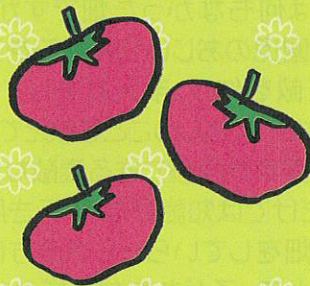
自分たちで買ってきた苗は、みんなで土づくりをしてプランターに植えました。毎日、お当番どうし声をかけあい、水やりをして、大きくなるのを楽しみにしています。

さて、4月に入園したお子さんたちも、友だちと元気に遊んだり、時には保育士に抱っこしてもらったりしながら、笑顔で過ごせる時間が増えてきました。

今年度も、真ん中にいる子どもも、まわりの大人たちも、みんなが楽しく笑顔で過ごせるように、人と人の関わりを大切に保育をしていきたいと思います。



トマトの苗見つけた



食育活動の再開

コロナ禍には「黙食」が求められ、子どもたちの「楽しく食べる子どもに成長していく」大切な時間を奪われてしまっていました。しかし、それは最善の予防法でもありました。今となっては、食事時間本来の楽しみを味わうことができなかつた記憶が思い出されます。本園では、平成22年から近畿大学農学部学生の皆さんと共に食育活動を行ってきました。残念ながらコロナ禍には中断されてしまいましたが、今年度再開できることになりました。

食育活動では、子どもたちが食べ物大切さを知り、食材を育て、収穫する体験、土の触感や植物の成長を観察して食材に対する愛着を育てていきます。また学生さんとともに、調理体験を通して食材の扱い方や料理のプロセスを学び、食事の準備に対する自信と意欲も高めていきます。



今日のメニューは「カレー」です

いこまこども園

園長 米田 恵美子

4、5歳児が中心となりますが、下の年齢の子どもたちも食育計画に沿って保育がなされます。子どもたちが食べ物を通じてコミュニケーションを楽しんだり、食物の保全への意識を育てたりと、将来の健康的な食生活の基盤を学び築いていきたいと思ひます。



高齢者施設より

16p

- 梅寿荘居宅介護支援センター
- 老人福祉施設梅寿荘

18p

- デイセンター寿楽
- 梅寿荘デイセンター

17p

- はあとぼーと梅寿荘
- あくなみ苑

19p

- 生駒市梅寿荘地域包括支援センター
- 特別養護老人ホーム延寿

業務改善から人材確保へ

ケアマネジャーの業務は、利用者さんへのモニタリング訪問に加え、ケアプラン作成・提供票の送付・関係事業所と連絡調整・記録業務など事務負担が大きくなっています。介護職の人材不足に加え、ケアマネジャーの人材不足も多くの居宅介護事業所が抱える課題となっています。現在、仕事の効率UPや業務負担軽減のためICTの導入が進められています。システムを導入し活用することで、今まで当たり前に行っていた作業がデジタル化され、時間・経費の削減につながる

梅寿荘居宅介護支援センター

センター長 斉藤 洋子

そうです。また、ネットワークを使い病院や関係事業所と情報共有や連携ができるシステムも運用されています。しかし、まだまだ取り入れている事業所も少なく、上手く運用ができていない現状ではあります。私たちアナログ世代には新しいことを理解するのに時間がかかり、手を出すことに躊躇してしまうところもありますが、少しずつ活用することで負担軽減や働きやすい環境を整えていこうと進めています。また、それが人材確保に繋がっていければと願っています。

対話の大切さと、お互い様と

仕事をしていく上でお互いの意見が折り合わず摩擦を起こしてしまう、なんて事はどこにでも良くある話ですね。

同じ目標に向かっているからこそ、熱心になればなるほど、それぞれが、この方法が良かれと思って主張するのですが、考え方の相違から、その意図が理解できずに譲り合えないと思ってしまうこともあります。思いは一緒なんだけどなあ～

年度の初めにあたり梅寿荘がたくさん掲げた目標の中の一つとして「お互い様」の譲り合いの

老人福祉施設 梅寿荘

養護施設長・特養次長 森本 公子

気持ちと「対話」を大切にすることとを挙げ、それぞれのニーズを満たす方法を考えていくということを掲げました。対話を重ねることで意見の違い、譲れないポイントを明確にし、皆で解決方法を探し出すことができるのではないかと思います。「仕事って楽しい!」と自然に協調し合えることができるよう、足らないところは補い合っ、いい加減ではなく「良い加減」の関係で更に働きやすい職場作りを目指したいと思います。

訪問介護における生活支援

令和6年4月より、3年に一度の介護報酬の見直しが実施された結果、訪問介護の報酬は引き下げられ厳しいスタートとなりました。最近の在宅介護の現状は、家で転倒をきっかけに入院その後施設へ、また、老々介護の中で介護者の体調不良により在宅生活が困難になり施設へ入所するご利用者が増えてきています。

訪問介護では、過去においても生活支援の時間の短縮、訪問回数の制限等見直しがありました。訪問現場では限られた時間の中で必要なケアを行っています。ご利用者が住み慣れた家で生活する上では、訪問介護による生活支援はなくてはならないものだと考えます。例えば、調理ではなく配食弁当を手配したら食事は心配ないという考え方もありますが、実際お弁当が配達されても、家の中に持ち込むことができない方、冷蔵庫に

はあとぼーと梅寿荘

主任 金田 智子

入れたままで食わずにそのままという方もいます。しかし、訪問して声掛けをし、食卓へ配膳すると召し上がられます。人による温かい支援が訪問介護の役割のひとつだと思います。短い時間ではありませんが、訪問先のご利用者の表情、部屋、冷蔵庫内、ゴミなどの観察から、わずかな変化を見逃すことなく生活の場から見える変化、会話の中からの要求をくみ取ることが必要です。

また、最近社会的にも孤独死のニュースも多く、定期的に訪問することで、生活リズムが整い、見守りもでき、人との関わりで安心感を抱かれ在宅生活を送ることが可能になります。訪問介護は、ご利用者の全体像を毎回観察して、住み慣れた家で在宅生活を送る上でも必要不可欠な仕事だと思います。

生き生きと働くことができる職場環境を目指して。

あくなみ苑

看護主任 田中 豊子

あくなみ苑をどんな施設にしていきたいか、医務室をどんな組織にしていきたいのか。組織を愛するとはどういうことなのか、スタッフを愛することはどういうことなのか。様々な思いが巡ります。私が考える組織を愛する事とは、組織理念・目的を共有し、目標に向かって活動する事。スタッフを愛する事とは、大切に育みながら、お互いに成長できるよう切磋琢磨していくことではないかと思っています。働く人たちがやりがいをもって、生き生きと働くことのできる環境を作っていきたいと思っています。生き生き働ける環境とは、スタッフの適性に合った役割分担と、権限委譲と考えます。主体的に考え、成果に結びつく過程に満足感を得ることができる。小さな成功体験が積み重なることで、多くのチャレンジができる。そのような環境をつくることで、人も組織も育っていくのではないかと思います。

スタッフそれぞれが自分らしさを生かし、生き生きと働ける職場環境作りを目指し邁進していきたいと思っています。



新年度がスタートしました。

まだ新年度がスタートしたばかりなのに「来年大学卒業生の就職内定率がこの時期としては過去最高の72%と高く、内定を受けた学生のうち半数以上が複数の企業から内定を取得していました。」と、毎朝の習慣で聴いているラジオのニュースから流れ、大学卒業当時の就職内定率が50%台だった氷河期世代の私は複雑な気持ちになりました。決して明るいニュースではなく、深刻な人材不足が背景にあるからです。企業は学生優位の売り手市場に対して早期選考が加速しているそうですが、こうした人材不足の状況は介護業界も例外ではありません。しかし、こうした社会情勢のなかでも今年度から新たな仲間がデイセンター寿楽に加わり、春風のように新鮮で暖かい風を吹かせてくれています。年度初めに理事長から「働きやすい職場風土の醸成を一層推し進める。」

デイセンター寿楽

主任生活相談員 中島 淳

と訓示を頂いた通り、労働環境の改善を目指すだけでなく、日頃から職員同士が認め合い、立場の違いを超えて互いが成長し、質の高い地域福祉が出来る施設を目指したいと思います。



今年の春はたくさん外出しました。

チームの成長に向けて

4月に入り、共に仕事をするスタッフが増えました。働き始めて、まだ1、2か月しか経っていませんが、既に、ご利用者や他のスタッフと良い関係性を築いています。この事は、私たちにとって、非常に喜ばしいことです。スタッフそれぞれの適性やご利用の皆さんの大らかな心による要因が概ねありますが、チームとして新しい風を受け入れ、互いに認め合い、時には戒め、支え合える職場環境である、とも感じています。

昨今、「働きやすさ」「働きがい」といった言葉をよく耳にします。「働きやすさ」は、職場環境が良い、残業が少ないなど外的な要因や外側から提供されるものとされています。一方、「働きがい」は、仕事そのものの楽しさや興味など、個人の内面から現れるものです。これらが備わることのメリットとして、スタッフのモチベーションアップ、生産性の向上、離職率低下・定着率の向上などが挙げられます。

梅寿荘デイセンター

生活相談員 中井 耕大

また、良いチームの条件として、「理念・目的の共有」「スタッフ間や職場への信頼感」「風通し」「協力意欲」などが挙げられます。これらの要素を共有し実践することで、チーム内のコミュニケーションや連携がスムーズになり、スタッフのモチベーションやご利用者の満足度の向上、離職率の低下・定着率の向上などが期待できます。

個人のモチベーションアップが、結果、チームとしての成長となり、良いチームの条件を意識してチームとして取り組んでいくことで、より良い職場環境の実現やサービス提供に繋がっていくものと考えます。

梅寿荘デイセンターとしても、スタッフ一人ひとりの「働きやすさ」や「働きがい」の実現に向けて、より一層考え実践してまいります。

地域共生社会について考える

生駒市梅寿荘地域包括支援センター

センター長 岩井 香奈子

今年度は主な年間行事に加え、これからの地域共生社会について考える「地域共生社会推進全国サミットinいこま」(R6年10月11・12日)が開催される予定で、それに向け地域包括支援センターも協働し準備を始めています。生駒市では「支える側」「支えられる側」という関係や世代、分野を超えて、多様な人がつながり支え合う「地域共生」のまちづくりを進めています。昨年度より高齢者だけでなく児童の関係や障がい担当部署とも制度、分野間で連携して課題を協議する場を

持ち、まずは顔の見える関係を築き、お互いを知るところからスタートしています。制度の違いを理解することはもちろん大事ですが、できること、できないことの線引きや連携を実際どのように実施していくか、そこは大いに個人の人間力や、センターの力量が問われるところであると思います。「地域共生」のまちづくりについて真剣に考える機会を得て、この一年職員皆で話し合いできることから着実に進めて行きたいと考えています。



インカム導入しました!

特別養護老人ホーム延寿

介護主任 大平 達也

特別養護老人ホーム延寿では、より安心感のあるケアとスタッフの連携の強化を目指し、今年度よりインカムを導入しました。導入したことにより、以下のメリットが期待できます。

●職員間の情報共有がスムーズになる:

インカムを使用することで、職員同士の連絡がスムーズに行えます。誰がどこで何をしているのかをすぐに把握できるため、業務の効率化に繋がります。

●ご利用者への緊急対応に役立つ:

インカムを装着している職員はボタン一つで通話状態になるため、緊急時に迅速に対応できます。例えば、夜勤時にトラブルがあってもその場を離れずに応援を呼ぶことができます。

●ハンズフリーのため業務がしやすい:

インカムはハンズフリーで使用できるため、職員は両手を使いながら業務を行えます。感染症対応中に他の職員に連絡を取る際などに有効です。

●新人教育のツールにもなる:

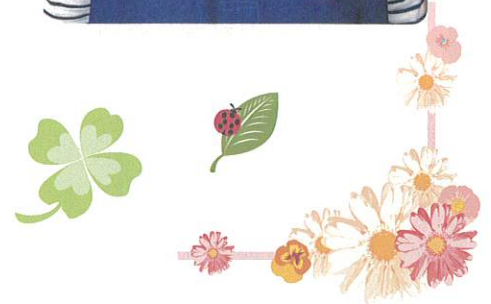
インカムを通じて先輩職員とコミュニケーションを図ることで、新人職員の心理的負担を軽減できます。

●ご利用者への安心感とプライバシーの配慮:

インカムを使用して職員同士が意思の疎通ができるため、フロアで大きな声を出さずに連携を図ることができます。また、ご利用者から目を離す時間を減らすことで、事故防止にも繋がります。

今後インカムを使用していく中で、まだまだ活用方法を見いだせるとと思います。もちろん、使用することでのデメリットも多少はありますが、これからもご利用者の快適な生活と職員の働きやすい環境を考えていきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

「がっかりにならないように」



今は施設でお世話になっている母が現役で仕事をしていた頃、「智子、園長にはなったらアカンよ、なりなや」とよく言っていました。夫婦で会社を経営していて、その厳しさや管理職の大変さを感じていたからかもしれません。それから一〇年以上経ち、園長に就任する事になりました。「任された以上はやらないとお母さん、ごめん」と一人、苦笑いをした三月でした。いっぽができて一二年。ひたすらに駆け抜けて来た気がします。奈良市から未就学児の療育の先駆けになる施設を作りたいと法人に依頼され、「この程度でいいか?」と思われたくなくて必死でした。一〇年経って委託が外れて尚、「質が下がった」と思われたくなくてやはり必死でした。私は「がっかりされる」事がかなり辛いです。これは生真面目というのでしょうか? 次の世代にバトンを渡すまでは、この「がっかり」にならず、「良かった」と思われるようこれからも精進していきます。

令和5年度 役員会等報告 (令和5年2月~3月)

役員会 Committee

【第6回理事会】 令和6年3月24日(金) 桃李館研修室

- 第1号議案 令和5年度第二次資金収支補正予算案の承認を求める件
- 第2号議案 令和6年度事業計画及び令和6年度当初予算案の承認を求める件
- 第3号議案 諸規定改正について承認を求める件
- 第4号議案 役員等賠償責任保険の更新契約を締結する件
- 第5号議案 施設長の人事について承認を求める件
- 第6号議案 理事長並びに業務執行理事の職務執行状況報告の件
- 第7号議案 その他報告事項

【法人苦情等対策委員会】 令和6年3月4日(月) 桃李館研修室 令和5年度の法人苦情等報告及び事例検討

人事

令和6年度 新採用正規職員

こども支援センターあすなる

児童指導員 渡辺拓己

愛染寮

保育士 高瀬竣矢

保育士 橋本ゆうひ

保育士 古谷仁七

仔鹿園

保育士 井本朱実

あすかの保育園

保育士 森下穂夏

管理栄養士 谷口和江

いこまこども園

保育教諭 山崎結月

極楽坊あすかこども園

保育教諭 藤岡未央

いこま乳児院

保育士 堀口愛梨夏

保育士 近藤若奈

延寿

看護士 下島由紀

看護士 佐枝政夫

看護士 田中信也

看護士 高橋恭子

看護士 西本幸代

デイセンター寿楽

介護士 山田直美

特別養護老人ホーム梅寿荘

介護士 勝田大葵

介護士 武田圭悟

介護士 仁木隆良

看護師 石川恵実

令和6年度 異動職員

延寿↓梅寿荘

介護職員 北嶋健吾

令和5年度 退職者

いこま乳児保育園

保育士 内野佳美

こども支援センターあすなる

保育士 杉賀子

保育士 石川千裕

児童指導員 藤村琴音

保育士 高根里恵

愛染寮

保育士 前田夏子

仔鹿園

保育士 濱崎留美

あすかの保育園

保育士 内田妙子

保育士 岸本菜依

管理栄養士 渡部佑紀

いこま乳児院

保育士 山本恵海

保育士 小松明美

保育士 柴田真佑

いこまこども園

保育教諭 坪井美咲

保育教諭 坂上茜

保育教諭 友澤有沙

保育教諭 西田茉由

保育教諭 奥村葵

保育教諭 杉本由美恵

あくなみ苑

介護士 西川孝平

介護士 宮北典子

延寿

経理主任 山内多恵

特別養護老人ホーム梅寿荘

介護士 西村優子

介護士 高橋恭子

介護士 天野舞香

法人単位資金収支計算書
(自)令和 5年 4月 1日(至)令和 6年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	備考
事業活動による収支	収入				
	介護保険事業収入	1,757,676,000	1,753,153,251	4,522,749	
	老人福祉事業収入	152,367,000	155,389,971	△ 3,022,971	
	児童福祉事業収入	463,110,000	471,689,601	△ 8,579,601	
	保育事業収入	865,172,000	846,517,854	18,654,146	
	障害福祉サービス等事業収入	483,292,000	484,385,077	△ 1,093,077	
	ヘルパー養成事業収入	300,000	250,000	50,000	
	経常経費寄附金収入	11,588,000	12,185,054	△ 597,054	
	受取利息配当金収入	1,577,000	1,561,420	15,580	
	その他の収入	33,558,000	33,806,461	△ 248,461	
	事業活動収入計(1)	3,768,640,000	3,758,938,689	9,701,311	
支出	人件費支出	2,703,295,000	2,665,081,161	38,213,839	
	事業費支出	573,362,000	551,786,454	21,575,546	
	事務費支出	355,669,000	337,360,281	18,308,719	
	その他の支出	22,237,000	21,445,715	791,285	
	流動資産評価損等による資金減少額	3,000	2,400	600	
	事業活動支出計(2)	3,654,566,000	3,575,676,011	78,889,989	
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	114,074,000	183,262,678	△ 69,188,678		
施設整備等による収支	収入				
	施設整備等補助金収入	342,591,000	367,797,136	△ 25,206,136	
	施設整備等寄附金収入	8,500,000	8,588,000	△ 88,000	
	設備資金借入金収入	350,000,000	350,000,000	0	
	固定資産売却収入	45,000	45,000	0	
	施設整備等収入計(4)	701,136,000	726,430,136	△ 25,294,136	
支出	固定資産取得支出	1,091,829,000	1,135,562,367	△ 43,733,367	
	固定資産除却・廃棄支出	108,000,000	2,310,000	105,690,000	
	ファイナンス・リース債務の返済支出	10,433,000	10,185,492	247,508	
施設整備等支出計(5)	1,210,262,000	1,148,057,859	62,204,141		
施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 509,126,000	△ 421,627,723	△ 87,498,277		
その他の活動による収支	収入				
	積立資産取崩収入	472,520,000	471,016,675	1,503,325	
	その他の活動収入計(7)	472,520,000	471,016,675	1,503,325	
	支出				
	積立資産支出	142,300,000	228,622,875	△ 86,322,875	
その他の活動支出計(8)	142,300,000	228,622,875	△ 86,322,875		
その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	330,220,000	242,393,800	87,826,200		
予備費支出(10)	434,000	—	434,000		
当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)	△ 65,266,000	4,028,755	△ 69,294,755		
前期末支払資金残高(12)	861,871,000	861,884,328	△ 13,328		
当期末支払資金残高(11)+(12)	796,605,000	865,913,083	△ 69,308,083		

法人単位事業活動計算書
(自)令和 5年 4月 1日(至)令和 6年 3月31日

(単位:円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	1,753,153,251	1,737,488,907	15,664,344
		老人福祉事業収益	114,500,646	113,716,882	783,764
		児童福祉事業収益	471,689,601	444,708,845	26,980,756
		保育事業収益	846,517,854	834,564,055	11,953,799
		障害福祉サービス等事業収益	484,385,077	473,637,837	10,747,240
		ヘルパー養成事業収益	250,000	150,000	100,000
		経常経費寄附金収益	12,185,054	63,035,090	△ 50,850,036
		サービス活動収益計(1)	3,682,681,483	3,667,301,616	15,379,867
	費用	人件費	2,663,326,161	2,623,596,408	39,729,753
		事業費	527,203,329	541,433,159	△ 14,229,830
		事務費	337,360,281	309,915,982	27,444,299
		減価償却費	210,783,148	189,630,948	21,152,200
		国庫補助金等特別積立金取崩額	△ 96,391,545	△ 89,508,273	△ 6,883,272
		徴収不能額	2,400		2,400
サービス活動費用計(2)		3,642,283,774	3,575,068,224	67,215,550	
サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	40,397,709	92,233,392	△ 51,835,683		
サービス活動外増減の部	収益	借入金利補助金収益		6,393	△ 6,393
		受取利息配当金収益	1,561,420	1,095,768	465,652
		基本財産評価益	187,000	760,000	△ 573,000
		投資有価証券評価益	5,002,513	13,192,477	△ 8,189,964
		その他のサービス活動外収益	33,806,461	33,514,642	291,819
		サービス活動外収益計(4)	40,557,394	48,569,280	△ 8,011,886
	費用	支払利息		47,685	△ 47,685
		その他のサービス活動外費用	21,445,715	20,153,567	1,292,148
		サービス活動外費用計(5)	21,445,715	20,201,252	1,244,463
サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	19,111,679	28,368,028	△ 9,256,349		
経常増減差額(7)=(3)+(6)	59,509,388	120,601,420	△ 61,092,032		
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	367,797,136	225,536,721	142,260,415
		施設整備等寄附金収益	8,588,000	180,000	8,408,000
		固定資産受贈額		124,000	△ 124,000
		固定資産売却益	44,998		44,998
	特別収益計(8)	376,430,134	225,840,721	150,589,413	
	費用	基本金組入額	8,588,000	180,000	8,408,000
		固定資産売却損・処分損	120,907,112	548,637	120,358,475
		国庫補助金等特別積立金取崩額(除却等)	△ 30,182,482		△ 30,182,482
		国庫補助金等特別積立金積立額	341,867,136	225,536,721	116,330,415
		特別費用計(9)	441,179,766	226,265,358	214,914,408
特別増減差額(10)=(8)-(9)		△ 64,749,632	△ 424,637	△ 64,324,995	
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	△ 5,240,244	120,176,783	△ 125,417,027		
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,500,907,680	1,347,366,777	153,540,903	
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,495,667,436	1,467,543,560	28,123,876	
	基本金取崩額(14)				
	その他の積立金取崩額(15)	441,500,000	202,480,000	239,020,000	
	その他の積立金積立額(16)	182,800,000	169,115,880	13,684,120	
	次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)	1,754,367,436	1,500,907,680	253,459,756	

法人単位貸借対照表
令和 6年 3月31日現在

(単位:円)

資産の部				負債の部			
	当年度末	前年度末	増減		当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,475,484,050	1,232,465,566	243,018,484	流動負債	724,338,019	489,198,730	235,139,289
現金預金	652,842,292	585,388,778	67,453,514	事業未払金	146,483,322	130,561,045	15,922,277
事業未収金	402,619,728	369,342,895	33,276,833	その他の未払金	397,219,000	199,701,340	197,517,660
未収金	77,636	57,079	20,557	1年以内返済予定リース債務	8,090,052	10,185,492	△ 2,095,440
未収補助金	410,869,853	266,919,045	143,950,808	預り金	1,134,707	511,800	622,907
貯蔵品	98,980	107,000	△ 8,020	職員預り金	64,733,938	39,807,053	24,926,885
立替金	711,839	958,293	△ 246,454	賞与引当金	106,677,000	108,432,000	△ 1,755,000
前払金	1,759,780	2,030,445	△ 270,665				
前払費用	5,598,942	7,562,031	△ 1,963,089				
短期貸付金	905,000	100,000	805,000				
固定資産	6,124,157,719	5,555,179,901	568,977,818	固定負債	491,558,016	133,341,868	358,216,148
基本財産	3,819,716,543	2,846,705,770	973,010,773	設備資金借入金	350,000,000	0	350,000,000
土地	323,061,540	323,061,540	0	リース債務	15,537,316	23,627,368	△ 8,090,052
建物	3,492,203,003	2,519,379,230	972,823,773	長期預り金	126,020,700	109,714,500	16,306,200
投資有価証券	4,452,000	4,265,000	187,000	負債の部合計	1,215,896,035	622,540,598	593,355,437
その他の固定資産	2,304,441,176	2,708,474,131	△ 404,032,955				
土地	4,433,872	4,433,872	0	純資産の部			
建物	6,667,506	5,616,968	1,050,538	基本金	787,653,360	779,065,360	8,588,000
構築物	135,601,205	31,063,750	104,537,455	国庫補助金等特別積立金	2,097,343,852	1,882,050,743	215,293,109
機械及び装置	1	1	0	その他の積立金	1,744,381,086	2,003,081,086	△ 258,700,000
車輛運搬具	4,038,175	6,217,276	△ 2,179,101	人件費積立金	205,730,000	204,730,000	1,000,000
器具及び備品	116,431,029	69,372,265	47,058,764	施設整備等積立金	1,149,940,000	1,322,340,000	△ 172,400,000
建設仮勘定	50,000,000	356,820,880	△ 306,820,880	ひめゆり基金運営積立金	28,768,000	27,568,000	1,200,000
有形リース資産	26,242,857	34,628,216	△ 8,385,359	社会福祉事業等運営積立金	159,200,000	249,200,000	△ 90,000,000
ソフトウェア	370,584	1,134,485	△ 763,901	公益事業等運営積立金	118,365,000	116,865,000	1,500,000
無形リース資産	664,524	1,803,708	△ 1,139,184	福祉基金積立金	82,378,086	82,378,086	0
投資有価証券	89,289,637	84,287,124	5,002,513	次期繰越活動増減差額	1,754,367,436	1,500,907,680	253,459,756
長期預り金積立資産	126,020,700	109,714,500	16,306,200	(うち当期活動増減差額)	△ 5,240,244	120,176,783	△ 125,417,027
人件費積立資産	205,730,000	204,730,000	1,000,000				
施設整備等積立資産	1,149,940,000	1,322,340,000	△ 172,400,000				
ひめゆり基金運営積立資産	28,768,000	27,568,000	1,200,000				
社会福祉事業等運営積立資産	159,200,000	249,200,000	△ 90,000,000				
公益事業等運営積立資産	118,365,000	116,865,000	1,500,000				
福祉基金積立資産	82,378,086	82,378,086	0				
差入保証金	300,000	300,000	0	純資産の部合計	6,383,745,734	6,165,104,869	218,640,865
資産の部合計	7,599,641,769	6,787,645,467	811,996,302	負債及び純資産の部合計	7,599,641,769	6,787,645,467	811,996,302

◆編集後記

先日、少し遠出をして樹齢1000年を超える杉木立と、その一面に苔生した参道がとても神秘的だと言われている神社に礼参りに出かけに行ってきました。雄大な山々に囲まれているところなので熊が出るとは聞いてはいましたが案内所に「熊鈴貸し出しします」の文字や「熊出没注意」の立て看板を見て、ジブリの世界のような風景を楽しむこともそこそこに足早に安全な社務所に戻ってきました。何ともスリル満点な参拝でした。最近、熊に遭遇し被害に遭われているニュースが頻りにテレビやネットのニュースに上がっています。また森の付近ではなく住宅街にまで出没しているとのこと。普段、町の中をのんびりと歩けていることが本当に有難いと思える一日でした。(森本)